すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第282号
2024年7月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

## 特集　第13回定時会員総会の報告

会長挨拶…… 2
2024年度　理事・監事

総会開催報告、議事抄録、…… 3
役員および担当委員会一覧

総会講演会報告、総会研修旅行報告…… 4

支部長会…… 5
ユースとともに拓く大学女性協会の未来

第26回大学女性協会　守田科学研究奨励賞授賞式… 6

受賞者研究概要…… 7

国連 CSW68参加報告 …… 8

国際奨学生報告会、次世代につなぐ会…… 9

第1回若手女性科学者海外研修助成事業報告 … 10
「デュオハヤシ」コンサート報告

支部だより　神戸支部・大分支部…… 11

シンポジウムのご案内…… 12
パトリシア募金寄付者ご芳名、
国内奨学生募集要項、新入会員、理事会から

# 大学女性協会を未来に繋ぐ

会　長　長谷川瑞穂

大学女性協会は1946年に設立され、今年で78年目になりますが、ひとえに諸先輩の努力のたまものと感謝いたします。新緑のまぶしい2024年5月12日に名古屋にて、第13回定時会員総会が開催されました。今年は役員改選期にあたり、13名の理事と2名の監事が選任され、長谷川が会長を務めることになりました。2024年度は移行期の大学女性協会が「一般社団法人」となる2029年迄あと5年という大事な時期でもあります。一般社団法人の移行法人として、公益目的実施事業（1～4の事業）の資金を2028年度までに使いきらなければなりません。同時に、2029年に「一般社団法人」として新たに出発できるように少しづつ準備を進めていかねばなりません。皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

大学女性協会は、高等教育を受けた女性たちが同じ志を持ち、より良い社会の実現に向けて活動する団体です。最近は幸福度に関する研究が盛んですが、オランダの学者R. Veenhoven は幸福だと感じるためには良い市民（good citizen）であることも必要だと述べています。人のために役立つ良い市民であることは自らの幸福度を上げることに繋がります。皆で頑張っていきましょう！

それでは、3つの目標と具体的な方針を述べます。

### 1）女性の高等教育の推進と女性の地位の向上をめざして

朝ドラ「虎に翼」の昭和初期や本協会発足の1946年に比すと女性の大学進学率、社会での活躍度は随分上がりました。それでも例えば研究職に就いている女性はまだ全体の17%台と低い比率です。そのような中で、本協会が1947年以来実施してきた奨学金事業は多くの研究者に道を与えてきました。奨学金事業を通し、若手研究者の支援強化と奨学生同士や会員との交流の場をさらに提供できるように努めていきたいと考えております。同時に会員の皆様の生涯学習に重点をおき、セミナー、シンポジウム、講演会等を充実した内容にしたいと思います。女性が学び、考え、賢くなることは社会の発展のために大切です。

### 2）国際協力と世界平和の推進

20世紀後半は第2次世界大戦、植民地主義への反省から独立国も増え、1990年代には多文化主義（multiculturalism）も謳われ、人類が平和共存できる社会になるのかと期待していました。カナダの学者、C. Taylorは多文化共生には承認（recognition）が必要であると述べています。自分と異なる他者を自分と同等の存在として認めることが共生の基本です。残念ながら21世紀に入り、相手の存在を認められない悲惨な出来事が多くなりました。2001年のアメリカ、ニューヨークの twin towers 同時多発テロに始まり、各地で戦争や暴動が絶えません。私事になりますが、ニューヨークの同時多発テロ事件の丁度10日前に学会のあったシカゴから2年間住んでいたニューヨークへ行くために乗っていた飛行機の窓から twin towers を見たばかりでしたので、その時のショックは筆舌に尽くせません。その後の戦争や暴動をテレビで見るたびに心が痛みます。自分にできることがないもどかしさの中で、せめて日々の暮らしの中で相手の立場に立って物事を考え、発言し、相手を承認できるように努めています。2024年度のシンポジウムでは「ウェルビーイングと環境」という視点から、共生の問題を考え、より良い社会を目指します。1954年に本協会が加盟した GWI は“Peace through Education”を掲げている世界平和を目指す団体ですが、大学女性協会も様々な形で参画しています。また、戦争、暴動などで悲惨な思いをしている世界の女性たちに支援の手を差し伸べている国連関係の会にも本協会は加盟しています。ともに世界平和のために尽力できるように努めて参ります。

### 3）大学女性協会の今後の発展に向けて

大学女性協会の今後の発展には、資金の確保、会員の増強、若手会員の確保と活躍の場の提供が何よりも必要であると考えます。引き続きパトリシア募金へのご協力をお願いいたします。また、皆様周りを見渡して会員にお誘いいただけると幸いです。若手会員に関しては、奨学生の方への声掛けや、「次世代につなぐ会」でのトーク、Jカフェでの講演など活躍の場の提供に努めて参ります。

最後に、私個人のホームページを開設しておりますので、よろしければご覧ください。

URL：https://mizuhohasegawa.wixsite.com/my-site-2　　QR コード：

## 2024年度　理事・監事

左より（　）内は分掌、理事略：
**片岡雅子**（調査・研究、生涯学習担当）、**今野美智子**（奨学･奨励担当）、**加納孝代**監事、**松﨑和子**（事業担当）、**中山正子**財務、**牧島悠美子**総務、**市川知惠子**会計、**大井恭子**（CIR・国際ネットワーク、国際交流担当）、**長谷川瑞穂**会長、**秋光正子**副会長、**鈴木千鶴子**副会長、**岡本美和**（支部担当）、**遠藤理枝**（支部担当）、**木口京子**監事、**穐田信子**（広報担当）

## 2024年度総会を終えて

愛知支部実行委員長　**妹尾瑤子**

名古屋のルブラ王山にて5月11日より13日まで2024年度のJAUWの総会と関連行事が行われました。支部長会に29名、懇親会に61名、第13回総会に93名、研修旅行に37名参加と多くの方に参加いただき無事に総会行事を終えることができました。

正式に愛知支部が総会開催を引き受けたのが遅く、例年でしたら5月第3週目に開催されるのですが、今年は1週間早くなり戸惑われた方もいらしたのではと思います。

愛知支部らしいおもてなしで皆様をお迎えできたのではと思っております。名札・名簿作成、会場の机の配置、マイクの用意、休憩時の工夫等致しました。講演は名古屋人の中の名古屋人である安田文吉氏に「名古屋自慢」をテーマに、ユースの方々からは未来へ踏み出す力強いメッセージをいただきました。

懇親会は楽しく会員同士の交流の場になることを念頭に、歌手の方をお願いし、最後に懐かしい歌「今日の日はさようなら」を一緒に歌いました。明日を信じ、友を信じ、JAUWの未来を信じて、来し方行く末を心に描きながら共にいることの幸せを感じられた時間でした。

旅行は有松絞染めの体験と作品のお持ち帰り、愛知のお菓子を含め総会の思い出にしていただけたら幸いです。

本部の方のご指導、会員の方のご協力のもと有意義な3日間でした。お礼を申し上げます。

来年は新潟でお会いいたしましょう。

みんなで「今日の日はさようなら」♬～＊！

## 第13回定時会員総会議事抄録

**日　時**：2024年5月12日（日）9：30～12：10
**場　所**：ホテル ルブラ王山　2階　飛翔
（名古屋市千種区覚王山通8－18）

**1．総会成立確認**：牧島悠美子理事より2024年5月12日午前9時30分現在の出席者83名、議決権行使書提出者288名、出席者合計371名の報告。2024年3月31日現在の正会員数603名の過半数以上の出席により総会の成立を確認。

**2．開会の辞**：岩村道子会長より開会の挨拶の後、逝去会員13名の冥福を祈って黙祷。

**3．議長選出**：定款に基づき、岩村会長が議長となる。

**4．書記選出**：森川淳子理事を選出。

**5．議事録署名人選出**：市川知恵子理事と牧島悠美子理事を選出。

**6．議事**

第1号議案　貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：市川知恵子副会長より議案書に基づき、貸借対照表・正味財産増減計算書・財務諸表に対する注記について説明、貸借対照表の一部誤記の訂正の報告、2023年度よりすみだ会計事務所に業務委託したことの報告があった。続いて佐々木澄子監事より業務及び会計監査の報告の後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案　理事13名選出並びに会長候補選出の件：議案書に基づき嶋田君枝理事から提案理由及び役員選考委員会鷲見八重子副委員長から理事候補者推薦についての説明報告の後、議長が同議案を議場に諮り、議場全員、議決権行使書の賛成287名の承認を得て選任可決された。被選任者は全員就任を承諾した。定款に基づき会長候補者として長谷川瑞穂理事が選出された。

第3号議案　監事2名選出の件：議案書に基づき牧島理事から提案理由及び役員選考委員会鷲見副委員長から監事候補者推薦の説明報告の後、議長が同議案を議場に諮り、議場全員、議決権行使書の賛成287名の承認を得て選任可決された。被選任者は全員就任を承諾した。

報告事項：①2023年度事業報告②2023年度公益目的支出計画実施報告、佐々木監事から監査報告、③2024年度事業計画及び予算について、各担当理事から報告があった。

**7．2024年公開シンポジウムについて**：次期理事会で決定する。

**8．能登半島地震支援について**：石川県庁内能登半島地震「子供の学び支援ポータルサイト」を通して支援継続中。

**9．次期会員総会開催地について**：新潟市で開催。新潟支部が担当。2025年5月17日、18日、19日。

**10．ウィメンファースト募金について**

**11．移行法人終了後を見据えた委員会の立ち上げについて**

以上をもって第13回定時会員総会は閉会した。

## 役員および担当委員会・委員長一覧

| 理事 | 氏名 | 担当委員会（委員長）等 |
|---|---|---|
| 会長 | 長谷川　瑞穂 | ウェブサイト管理委員会（長谷川瑞穂） |
| 副会長 | 鈴木　千鶴子 | 企画委員会（鈴木千鶴子） |
| 副会長 | 秋光　正子 | 会員委員会（縄田眞紀子） |
| 総務 | 牧島　悠美子 | 注：役員選考委員会、会員拡大委員会、規定等検討特別委員会、公益目的支出計画に関する特別委員会が理事会の要請に基づき設置される |
| 会計 | 市川　知惠子 | |
| 財務 | 中山　正子 | |
| 理事 | 片岡　雅子 | 調査・研究（片岡雅子）、生涯学習（松村和子） |
| 理事 | 今野　美智子 | 国内奨学（窪田憲子）、社会福祉（遠藤理枝）、科学研究奨励（菅原洋子）、国際奨学（加納孝代）、若手女性科学者海外研修助成事業（菅原洋子）、次世代につなぐ会（岩村道子） |
| 理事 | 大井　恭子 | 文化交流（建部静代）、国際ネットワーク（鈴木千鶴子） |
| 理事 | 穐田　信子 | 広報（端本和子） |
| 理事 | 松﨑　和子 | 親睦事業（植松ちどり）、収益事業（藤谷文子）、文化事業（鷲見八重子） |
| 理事 | 遠藤　理枝 | 23支部担当 |
| 理事 | 岡本　美和 | |
| 監事 | 加納　孝代 | 監査 |
| 監事 | 木口　京子 | |

## 2024年度総会公開講演「名古屋自慢」安田文吉氏　～南山大学名誉教授～

愛知支部　**森　真由美**

2024年度総会の開催地が愛知に決まり、講演会も愛知らしくと、当支部は安田文吉先生にご講演の依頼をしました。

安田先生は南山大学名誉教授であられ、ご専門は歌舞伎・浄瑠璃の研究ですが、ご専門だけでなく名古屋の歴史や文化全般に大変造詣の深い方でいらっしゃいます。当日は大変お忙しい中、24ページもの貴重な講演資料をご用意くださり、お越しくださいました。

演題は「名古屋自慢」で、講演内容は愛知の地形から尾張徳川家の歴史、瀬戸物の話、名古屋弁、当地の食べ物等と多岐にわたりました。現在の尾張地方はほぼ伊勢湾であったこと、周辺の方言から考察されるに伊勢湾が東西の境界であること、家康が名古屋に築城したのは当地が肥沃で地震が少なかったこと、家康が定めた元号「元和」に込めた思い、宗春（尾張徳川家第7代藩主）と吉宗（江戸幕府第8代将軍）の仲は実は悪くなかったこと、日本全国の陶磁器の総称を「瀬戸物」というのは瀬戸市が陶磁器発祥の地であること等々、驚くことばかりでした。

聴衆は約90名で、先生のお人柄か、会場は終始和やかなムードでした。講演時間が約1時間という予定でしたので、残念ながら講演資料のすべてを拝聴できませんでしたが、会場の皆様は大変興味深くお聞きくださったようでした。というのも、時間の都合上、講演後には3名のみの質問を受けつけてお開きとなりましたが、先生がお帰りになる講演会場からホテル出口までの道中も、会員方が先生に話しかけておられました。

「名古屋飛ばし」という不名誉な言葉がありますが、この機会に愛知の魅力が大いに伝わればと思います。

皆様、またどうぞ愛知へお越しくださいませ。

## 愛知の郷土文化を体験し、喜びを共有！

愛知支部長　**稲葉みどり**

2024年度の全国総会後、愛知支部が企画した研修旅行は、地元愛知の郷土文化を体験するというテーマで37名の参加者を迎えました。早朝、ホテルルブラ王山を出発し、有松、蒲郡、西尾を巡りました。

観光バスの中では、愛知支部の会員の一人が染色の種類や技法を、自身の作品を用いて紹介しました。次に、有松・鳴海絞り会館で伝統工芸有松絞りの実演や展示を見学し、絞りエンジニアの指導のもと、雪花絞りの糸締めや板締め等の技法でハンカチや手ぬぐいの染め体験を行いました。その結果、世界に一つだけの色彩で個性豊かな作品が完成しました。参加者からは、「有松絞りを楽しむことで総会の疲れを忘れました。経験豊富な先生方の手際も見られ、楽しいだけでなく学びの時間でもありました」「有松絞りのハンカチは楽しい思い出のお土産です」といった声が寄せられました。

次に、蒲郡クラシックホテルでは、観光バスが駐車場に到着した際、雨の中ホテルのスタッフが傘を持って出迎え、車で玄関まで送迎してくれました。ホテル総支配人からは、ホテルの歴史等の紹介がありました。昼食には、三河湾の海の幸や蒲郡みかんジュースを堪能しました。「クラシックな佇まいや内装、外に広がる景観が美しい」「スタッフのおもてなしの心が素晴らしい」「ホテルの建物や竹島をデザインした食器セットは素敵」等の感想が寄せられました。

西尾抹茶ミュージアムでは、世界の抹茶製品の展示や碾茶製造工程の見学、茶臼碾き体験、試飲等を行いました。「何十と並ぶ石臼にはびっくり！」「バスの車窓の回りに広がる黒い紗をかけた茶畑は初見です」「しっかり抹茶シェイカーセットを買ってまいりました」など声がありました。

生憎の雨で有松の町並み、竹島遊園、茶畑の散策等ができなかったのが心残りですが、バスの中では楽しく談笑する声が響きました。愛知の郷土文化に触れる旅で、皆様との体験と喜びを共有できたことを嬉しく思います。これからも皆様との交流を大切にしていきたいと思います。ご参加いただき、ありがとうございました。

有松絞りの染め体験：「見て！私たちの作品」

## 支部長会2024

2024年5月11日（土）14：30〜16：30
ホテル　ルブラ王山 2F 葵

司会：支部担当理事　**山下いづみ**
記録：支部担当理事　**鷲崎千春**

支部長会は、岩村会長のご挨拶「支部の皆さまの生き生きとした活動をもとに、私たち本部の活動が成り立っています」で始まった。北の支部から順番に、今年度最も心に残った活動を語っていただいた。新潟支部では2年続けて国内奨学生に選考されたことを報告。奨学生の推薦をすることがなかなか難しいという支部もあった。奨学生、また奨学生候補者の講演会は各支部で開かれていて、若い人との交流が楽しいという。我々は高齢期を生きていることに違いないが、やはり対面で集まっておしゃべりして、何か知識を得て、それが嬉しいという感想も聞かれた（福井・長野・長崎支部）。それから地域の色々な所を知ろうという愛知支部の提案も参考になった。奈良支部では本部のニュース・企画もその都度会員に知らせ、Zoomも使えるようになり、心あれば色々な知識が得られるとの報告。京都支部からは「次世代につなぐ会」に若手会員が活躍し、調査・研究でインタビューに応じてくれた若い人とも繋がりを持てたと報告。広島支部からは原爆ドームには外国人も多く、今や「広島は世界の広島になった」との発言もあった。福岡支部からは入会して1年で支部長を引き受けたと、この前向きな姿勢を頼もしく思った。大分支部は年に1回の「クラルテ」を発行でき責任を果たせたと報告。神奈川支部からは会議室を確保する悩みも伺えたが、事務所を使用してのパブリックビューイングでの講演会が良い経験だったと挙げられた。静岡支部は「女性に対する暴力をなくそう」パープルライトアップの県の企画に参加した報告、東京支部では、新入会員が次々に友人を紹介してくれた熱意に感謝した。時間ぎりぎりまで大変盛り上がった支部長会だった。
（参加者：理事・監事12名、支部長及び代理19名）

## ユースと共に拓く大学女性協会の未来

企画委員会委員長　**中道貞子**

現在、大学女性協会では会員の高齢化と会員数の減少が大きな課題であり、会の継続的活動のためには次世代につなぐ取り組みが重要と考えます。趣旨説明では、40年間にわたる会員数の推移を示し、40年間で四分の一に減少していること、次世代の人々をいかに取り込んでいくかが喫緊の課題であることを述べました。その後、4名の登壇者による報告があり、それを踏まえた意見交換という構成で進行しました。

最初の報告は「『ユース』をキーワードに実施したシンポジウム＆セミナー」（動画メッセージ：企画委員会委員長中道貞子）。2022年度公開シンポジウム及び2023年度全国セミナーは、メインタイトルを「教育・ジェンダー・共生」とし、サブタイトルには「ユース」を入れ、ユースに焦点を当てて実施しました。そのどちらにも若手会員や大学生、大学院生たちをパネリストに迎えました。彼らが置かれている状況や考え方についての学びがあったこと、それを受けて、私たちが取り組むべきことの議論をした充実したイベントであったことの報告と、セミナーでの議論を踏まえてまとめた「私たちの提言」を紹介しました。

二つ目の報告は「ユースの『生きづらさ』アンケート＆インタビューから見えてきたこと」（調査・研究委員会委員長　片岡雅子）。ユースの皆さんの視点を積極的に学び、誰もが生きやすい希望ある社会を共に実現していくことを目的として実施したアンケート調査結果の概要の報告がありました。次に、学生たちへのインタビュー、それを受けて実施した学生への報告会の紹介がありました。学生たちからは、行政への働きかけをしてほしい等の要望が述べられた一方で、対等な立場でユースと関わることの難しさがあることも分かりました。活動を通してユースの思いの一端を知ることができたこと、そして、今後の提言に向けて活動を続けていく予定であることが述べられました。

三つ目の報告は「『次世代につなぐ会』活動の始まりと現状」（次世代につなぐ会副委員長　宮下摩維子）。第1回会議は、2022年6月にオンラインで開催されました。そして、翌年2月の若手会員により運営された公開ワークショップを経て、会員と奨学生がつながる場を作る取り組みへと発展しています。若手研究者の発表・意見交換会が継続して実施されていることの報告がありました。研究や教育に携わると同時に、子育てなど私生活でも奮闘する現役会員たちの主体的な取り組みが動き始めていることの嬉しい報告でした。奨学生同士、会員同士のつながりを進めるためには現在行っている活動以外に、「入会するきっかけが必要→活動に面白さや学びがなければ続けられない」「先輩方の人生から学ぶことは多い→メンター制の構築」「現役世代が活動を続けられる新しい活動スタイルを」など様々な意見の紹介があり、とても頼もしい発表でした。

最後の報告は「ユースをとりこむ工夫と実践」（京都支部長　久保宜子）。京都には多くの大学や研究機関があります。守田科学研究奨励賞受賞者や国内奨学生などの若手研究者が「次世代につなぐ会」に参加して活動されていること、また、京都支部では毎年多くの国内奨学応募生がいるので、受賞者だけでなく、応募者にも活動参加を呼びかけているとのお話がありました。さらに、若い会員に例会企画をお願いするなど積極的な働きかけをし、ユースのネットワークづくりが進められていることのわかる力強い報告でした。

その後の意見交換では、各委員会が何をしているのかが分かればユースとつないでいけるのではないか、委員会によるインターンの受け入れができればよい、今後も奨学生との連絡を密にしていきたいなどの意見がありました。いろいろなアプリを利用していることの紹介など、具体的なアイデアについての発言もあり充実した会となりました。

多くの会員が築き上げてこられたものの素晴らしさを次世代に伝えること（Communication）、シニアとユースや異分野の人々を繋げること（Collaboration）、意義ある活動を続けること（Continuation）」を心にとめて今後も活動し、大学女性協会の未来が拓けていくことを願っています。

左より　久保宜子さん　片岡雅子さん　宮下摩維子さん

# 第26回大学女性協会 守田科学研究奨励賞授賞式

科学研究奨励委員会委員長　**菅原　洋子**

第26回守田科学研究奨励賞授賞式が6月2日（日）にアルカディア市ヶ谷を会場として執り行われた。今回の授賞者は、公益財団法人高輝度光科学研究センター・主幹研究員の河口沙織さんと名古屋大学大学院医学系研究科・准教授の服部祐季さんのお二人である。

第1部授賞式、第2部受賞記念講演会に続き、第3部として昨年度スタートした若手女性科学者海外研修助成事業報告が行われ第1回助成対象者の加島璃子さんと萩原幹花さんにも御参加いただいた。第4部受賞記念パーティーでは4人の若い研究者を囲んで和やかな歓談のひとときを過ごした。河口さんの推薦者の高輝度光学センター常務理事の坂田修身様、来賓としてご参加いただいた中部大学特任教授・元朝日新聞論説委員辻篤子様、また、服部さんの推薦者の名古屋大学大学院教授宮田卓樹様からはZoomにて、女性研究者を取り巻く現状と改善へ向けてのメッセージをいただいた。第2部、第3部についてはZoom配信を行った。

河口沙織さんは、東京工業大学理学部地球惑星科学科を卒業後、同大学大学院理工科学研究科に進学し、2015年に博士（理学）を取得された。同年7月に高輝度光科学研究センターに研究員として着任し、2022年に主幹研究員となられた。受賞研究課題は「3000K、100GPa以上の高圧高温下における液体試料の放射光X線計測手法の開発と地球外核および隕石研究への応用」である。SPring-8において放射光X線計測技術とダイヤモンドアンビルセルを用いた高圧発生技術の開発に取り組み、極限環境下での実験に成功し、地球惑星科学分野に大きな貢献をするとともに、物質科学を含む高圧科学のフロンティアを切り開いてきた。

服部祐季さんは、京都大学医学部保健学科を卒業後、京都大学大学院生命科学研究科に進学し、2015年に博士（生命科学）を取得された。同年4月に名古屋大学大学院医学系研究科に特任助教として着任、日本学術振興会特別研究員（PD）、講師等を経て、2023年7月に准教授に昇任された。受賞研究課題は「脳発達期における免疫細胞ミクログリアの細胞動態と機能」である。ご自身が確立した胎仔脳in vivo観察技術などを用いて、ライブ観察を活用した研究を進め、ミクログリアの「生い立ち」の違いがどのようにその個性化・機能獲得につながり、脳の発生過程にどの様にかかわっているかという免疫系と脳の出会いに注目した課題に取り組み成果を挙げてこられた。

研究内容の詳細はお二人の受賞者の記事をご参照いただきたい。今後のますますの活躍が期待される。

**第27回 大学女性協会守田科学研究奨励賞**
**受賞候補者募集要項**

**趣　　旨**：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対　　象**：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2025年4月1日現在）の女性科学者を対象とします※。
※出産・育児・介護等による休業期間等がある場合はこの期間を年齢から除外します。対象者は根拠を明記してください。

**授賞件数**：年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

**提出書類　応募書類はメール添付で提出していただきます。**

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 履歴書
   記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所、電話、所属機関（住所、電話）・職名、e-mail、専門分野、学位、学歴（高校卒から）、職歴
3. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）
   記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
4. 主要な論文5編以内（ファイル名に研究業績リストの通し番号を入れて下さい）
5. 推薦状（推薦者から直接別メールで送付）

**【送付先】**morita_prize@jauw.org

**【件名（subject）】**「第27回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」

＊推薦状以外（1，2，3，4）を各々pdf化して1つのフォルダーに収めzipファイルとする。
フォルダー名：応募者名
zipファイルの容量が5MB以下：メールに添付で送付、
zipファイルの容量が5MBを超える場合：ファイル便で送付

＊推薦状：推薦者から直接morita_prize@jauw.org宛に送付
件名（subject）:「第27回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募（推薦状）」
ファイル名：被推薦者名

上記の提出方法について、不都合がある方はメールにてお問い合わせください。

**応募締切日**：2024年11月18日（月）（必着）

**選考結果の通知**：2025年3月末

**書類送付先・連絡先**：e-mail：morita_prize@jauw.org

一般社団法人　大学女性協会
〒160-0017　東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101
Tel：03-3358-2882　Fax：03-3358-2889
https://www.jauw.org/scholarship-information/moritakagaku/

## 高圧高温下における液体試料の放射光X線計測手法の開発

公益財団法人高輝度光科学研究センター
主幹研究員
河口（かわぐち）　沙織（さおり）

放射光高圧科学技術は広い研究分野において重要なプローブであり、地球深部物質学への展開はその最たる例のひとつである。地球の外核が液体鉄合金であることは70年も前から知られていたが、どのような不純物（実際の地球外核の密度は純鉄のそれより小さいため、軽元素が含まれている）がどれだけ含まれているのかは未だ明らかになっていない。地表から10kmより深い地球深部についての直接観測量は地震波速度のみであるため、そこから得られる弾性波速度・密度データから組成の情報を読み解くことが地球核（地表より2900km深部、135GPa以上、3500K以上の高温高圧状態）の組成を推定する唯一の方法である。そのため外核の組成を議論するためには外核条件相当の高温高圧下における弾性波速度・密度測定が必要だが、従来の技術で可能な実験は大型高圧発生装置を用いた10GPa以下の低圧領域に限られていた。

私は、高圧発生装置ダイヤモンドアンビルセル（DAC＝ダイヤモンドで試料を挟み込み加圧する装置）を用いた高圧発生技術とSPring-8の放射光X線計測の技術開発、および利用研究により、液体鉄合金の弾性波速度、密度測定を外核条件に迫る高温高圧下において実現した。まず、SPring-8 BL35XUにおける高分解能X非弾性散乱法による弾性波速度測定を目指し、装置類の立ち上げを行い、60GPa、3000Kまでの高温高圧下における液体鉄硫黄合金の音速決定に世界で初めて成功した。液体鉄合金の密度測定については、X線回折（XRD）測定から液体鉄合金の密度を決定する手法を、SPring-8 BL10XUにおいて従来より高いエネルギーのX線を利用した測定へと拡張すると同時に、固体状態における精密構造解析を組み合わせることで、信頼性の高い溶融金属の密度決定を行うことに成功した。弾性波速度・密度両測定結果は矛盾なく、硫黄は地球外核に含有されている可能性が高いことを示唆している。最近では、次のステップとして複合動的環境下におけるサブミリ秒XRD計測技術を開発、原始地球に隕石が衝突することでマグマオーシャン、そして液体地球外核が形成されたその瞬間を再現するような動的高圧・高温環境をDAC中で実現し、マグマの結晶化のその場での可視を実現した。これら計測システムと精密な高圧発生技術は、様々な物質に対して応用可能なため、地球物質学から材料合成分野までの広い研究分野において一助となることを願っている。

最後に、守田科学研究奨励賞に選出していただき大変光栄に存じます。御選考された先生方ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。これからも更なる研究の発展に努めてまいります。

## 脳発達期における免疫細胞ミクログリアの機能解明を目指して

名古屋大学大学院医学系研究科
准教授
服部（はっとり）　祐季（ゆき）

中枢神経系には、神経細胞の他にも免疫系細胞であるミクログリアが存在し、脳機能を支えています。ミクログリアの成体脳における機能解明が先に進んだ一方、2010年代以降から胎生期から生後にわたる発達期の機能に関しても報告が増え、神経細胞の分化制御や血管形成の促進など様々な役割を担うことが明らかにされてきました。さらに、近年急速に発展したシングルセル解析により、ミクログリアには遺伝子発現的にも多様性があることが示されています。しかし、「どのようなプロセスを経て多様性を獲得するのか」は明らかにされていません。また興味深いことに、胎齢の進行に伴ってミクログリアは大脳皮質原基における局在を変化させることが分かっています。様々な機能を適切な時期・場所で発揮するには、その分布・移動を制御する機構が円滑に働くことが肝心であると考えられます。そこで私は、ミクログリアの分布制御と性質多様性獲得のメカニズムを明らかにするために研究に取り組んできました。

最近私達は、ミクログリアの性質多様性が、脳への侵入経路やその時期に依存する可能性に着目しました。そこで、ミクログリアが脳に侵入する際にたどる分布経路を、マウスの脳スライス培養下ライブイメージング、二光子顕微鏡を用いた胎仔脳生体イメージング（システムを新たに構築）、細胞運命追跡等を通じて調査しました。その結果、ミクログリアには少なくとも2つの異なる経路を使って脳に定着する細胞集団が存在することが明らかとなりました。すなわち、胎生9日目頃にミクログリアの性質を備えて脳に侵入する群と、その後遅れて（胎生12日目）脳室から流入する脳境界関連マクロファージ（ミクログリアと起源が同じで多くの遺伝子発現を共有するものの、脳内での局在や性質が異なる細胞集団）に由来する群が存在することを見出しました。

上記を踏まえて、現在はミクログリアの分布経路の違いによって、どのような細胞特性を持つ細胞集団が生まれ、それぞれがどのように脳機能に貢献するのかについて研究を進めております。一方で、ミクログリアが脳に定着した後に周囲環境によって性質が決まる可能性も考えられます。今後はその両面からミクログリアの性質多様性がいかにして決定され、脳形成あるいは将来の脳機能に貢献するのか明らかにしていきたいと考えています。

最後になりましたが、このたび第26回守田科学研究奨励賞を賜りまして、日頃よりご指導いただいている先生方、支えてくださっている研究室の皆様、家族、ならびに、大学女性協会関係者の皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

# 国連 CSW68参加報告

## 声を上げ続ける事の重要性と市民社会の役割
横山浩花

国連本部に実際に赴き、多くの刺激や学びの中で私が特筆したいと感じたのはフランスの団体によるパラレルイベントです。フランスでは、市民社会は国家に訴えかけながらも同時に自分達でも活動し続けなければならないという強い想いを持っていました。また、問題が起きた時だけに運動が起こるのではなく、問題が注目を浴びる前から常に声を上げ続け活動している団体や人々がおり、その熱量や団体を超えた結束力の強さを実際にイベントで感じました。

私感ですが、日本の市民社会は国や政府に対して不平不満を言うものの、より良い社会を目指して実際に行動に起こしている人は少なく、特にユースの参加はわずかです。そこで政府任せの受け身の状態から脱し、地方からも発信していきたいと強く考えるようになりました。その第一歩として、地元岡山で話し学びそして発信できる場所を作り、地方からも盛り上げていこうと思っています。

## 大切なのは団結し、次の世代に繋げていくこと
吉原佐保

2024年3月7日から23日まで、CSW68 にオブサーバーとして出席し、世界中で女性の地位向上に向けて活躍されている第一線の方々の国際的な議論や視座の高いイベントに参加することで、ジェンダー平等という世界共通の目標へ向けての現在地と今後の課題、ユースとして成すべきことを学び得ることができました。

日本ユース代表の鈴木りゆかさんがユースダイアログで「CSW をパフォーマンスで終わらせてはいけない」とスピーチされており、私達ユースもパフォーマンスで終わらせないための新たな取り組みを始めました。紙谷先生には「声を反映させる仕組みがないなら、自分たちで働きかける必要がある。」と背中を押していただき、日本から参加した各 NGO のユースで報告会を行う予定です。

CSW68は、自分達に出来ることを精一杯考え、働きかけ、次の世代に繋ぐ一歩を踏み出した、そんな2週間となりました。最後に、参加した各イベントで必ずと言っていいほど聴こえてきた力強く逞しい言葉を共有いたします。

“This is not a women’s issue,
it is a human right’s issue.”

国連会議場で、横山さん（左）と吉原さん（右）

## CSW68に参加して
岡山支部　木口京子

大学女性協会から派遣する若手の方々のアテンドということでしたが、3月11日から22日の会期中、仕事の都合により後半の3日間だけの参加でしたので、若手派遣のお二人に教えていただいたという感じでした。

私は、語学力と情報収集力、3日間という時間的制約から、国連本部で開催される「サイドイベント」に絞り、可能な限り出席しました。ジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントを実現するために、各国の現状に対して、様々な視点からのアプローチが行われていることを理解しましたし、ジェンダーに基づく偏見や不平等、暴力は、各国共通に、根深く存在していることを実感しました。

CSWは毎年開催されており、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現するための包括的グローバル指針「北京行動綱領」の進捗状況を確認する機会であり、日本国内の男女共同参画や困難女性支援、DV 防止などの取組みと密接につながっています。このことをもっと多くの人に知っていただきたいと思いますし、日本各地で活動されている女性や子どもたちの支援を行うグループやNGOの現場の声から、より現実的な課題解決の方法を考え、提案していきたいと思います。

## CSW68報告会から感じる新たな息吹き
国際ネットワーク委員長　鈴木千鶴子

毎春３月に２週間開催される国連女性の地位委員会（CSW）へ JAUW の国際会議参加支援制度により派遣される若手の報告には何時も大いに触発されます。今年の報告会は4月29日祝日の午後に Zoom で開催され、30名を超える参加者から好評を博しました。

今年前進できたこととして二つ挙げることができます。先ず、これまでも促されながら実行されなかった「他の女性団体から参加のユースたちとの連携・結束」です。もう一つは「経験を次の世代へ、また日本の周りの人々へ繋げ拡げ、その結束力で国連へも働きかける行動」です。

このような若手の新たな動きは、シニアの助言と後押し無くして生まれなかったことでしょう。そのシニアたちにも、市民社会の一員として各地の自治体ならびに国に対して、CSWへの参加経験なくしては発想できなかったアイディアを、提起し働きかけていく動きが生まれてきています。

## 2023年度の国際奨学生報告会

国際奨学委員長　加納孝代

外国人若手の女性研究者に対して半年弱の研究機会を提供してその人のキャリア形成を励ますと同時に、その国との友好を促進するというのが国際奨学金制度の趣旨です。世界的コロナ蔓延による3年の中断を経て、2023年度に二人の奨学生を迎えました。南米のコロンビアからの大学教員シルヴァーナ・モントーヤさんと、北アフリカのモロッコからの博士課程大学院生ハナン・セフラウィさんです。

モントーヤさんは京都大学防災研究所で地震による液状化現象を研究する計画でしたが、奇しくも今年1月の能登半島地震に遭遇、指導教官の後藤先生の現地調査団に参加するという貴重な体験をされました。セフラウィさんは広島大学の先進理工系大学院でファジー理論を用いた人工知能の研究を遂行されました。

3月末に帰国予定の二人を東京に招いて3月8日に今井館聖書講堂で留学成果報告会をもちました。二人とも留学先で温かいサポートと研究環境に恵まれ、とてもよい時間を過ごしたそうです。提出された専門分野に関するそれぞれのリポートも立派でしたが、ほかにも沢山の無形の収穫があったことでしょう。報告は英語で行われましたが、モントーヤさんが「今後研究者として歩んでゆくとき、常に“ファイナル・ゴール”を意識し続けたい」と語った言葉が印象的でした。地震の被災者に直接会ったことから、研究とは最終的に人を幸せにするのが目標だと気付いたと説明されました。セフラウィさんも、イスラームの女性として、伝統を大切にしつつも、まだまだ少ない女性研究者としてモロッコでパイオニア的役割を果たしてゆきたいと語られました。こういう二人を大学女性協会として支援できて良かったと思います。

左　シルヴァーナ・モントーヤさん　　右　ハナン・セフラウィさん

## 次世代につなぐ会　月例発表 / 談話会 2024年2月10日　オンライン開催
## 『異国に住む良さ　～1年間のアメリカ・カリフォルニアの滞在から～』

2011年度守田科学研究奨励賞受賞者　龍谷大学農学部教授　塩尻かおり（京都支部）

昨年の1年間のサバティカル期間に、植物間コミュニケーションの研究を行うため、カリフォルニア州デービスにて、家族6人で過ごしました。ここは、UCDavis のある町で、人口約7万人でその7割が学生を含む大学関係者です。Davis は、20年前に JSPS 海外研究員として2年間滞在していた場所で、実はそこで夫と出会ったのでした。その場所に今度は家族で住むというチャンスを得られたのは、とても嬉しいことでした。

アメリカの物価上昇は異常でさらに円安のダブルパンチで、なんでも日本の3倍かかりましたが、このような中でも、「楽しかったなあ。また行きたいなあ。」って思えている主な理由を考えてみました。

**①日本では出会えなかった人と友達になったこと**　大学街なので、私達と同じように研究や留学で短期で様々な国の人がきます。例えば、子供が通っていた小学校（一学年50人程度）でも、母国語が27カ国語あったそうです。なので、子供達も英語を第一言語としていない人にも慣れているし、子供ら自身も自分は他所の国の人っていう概念をあまり持っていないように思いました。外国人という言葉ではなく、「〇〇人」っていう表現を用いていました。また、日本人でも、日本にいると知り合えなかった人と友達になれたのはとても楽しく、また研究面でも異分野交流で発展しました。

**②多様な文化や国際情勢を知れること**　小・中・高校と子供がいたので、アメリカの教育方法・子育て事情を目の当たりにし、日本との違いに驚くことばかりでした。アメリカではダメで、日本の教育システムの方がよいところもありますが、アメリカの教育では、自己肯定感、アピール力が高まるところがとても良いところだと思いました。また、様々な国の家族と知り合いになり、文化だけでなく、ニュースで知るのとは違った見解があることを知ることができました。

**③家族で過ごす時間が長かったこと**　2時半には下の子が帰ってくるので、それまでには私か夫のどちらかが家にいる必要があったこと、夏休みが長いこと、子供だけでは外にいけないことなど、否応なしではあったのですが、家族全員で過ごす時間が膨大にありました。

異国に住むということは、日本の良さを知る上でも貴重な機会だと思っています。また機会があれば、「名乗りを上げて行くゼッ！」と決心している次第です。

# 第1回若手女性科学者海外研修助成事業実施にあたって

若手女性科学者海外研修助成事業委員長　菅原洋子

研究者として踏み出そうとする若い方が、海外での研修や研究活動を経験して国際的視野を持った研究者になることの支援を目的として、本事業が開始されました。第1回目は、化学分野の加島さんと農学分野の萩原さんのお二人の約3カ月間の海外研修に対し助成を行いました。Web サイト（https://www.jauw.org/activity/202404morita-jyoseijigyou/）もご参照ください。

九州大学理学研究院日本学術振興会 PD　萩原（はぎわら） 幹花（とみか）

私は2023年度大学女性協会若手女性科学者海外研修助成事業の支援を受け、2023年9月～11月の3か月間、渡米し、植物間コミュニケーションに関する国際的な研究経験の第一歩を踏み出すことが出来ました。この3ヶ月間に、カリフォルニア大学デービス校・Richard Karban教授、同Elizabeth Corn教授、U.S. Geological Survey・Ian Pearse研究員、オハイオ大学・Rebecca Snell教授、タフツ大学・Orian Colin教授、ボストン大学・龍見史恵研究員を訪問し、議論していただくと同時に、Karban教授、Pearse研究員、Snell教授には調査同行もさせていただきました。

この研修では、各先生方との調査同行やプレゼン発表を通じて、今後の研究の進展に大いに寄与できる知識や経験を得ることができました。これらの貴重な経験は、大学女性協会の温かい支援があってこそ実現しました。3カ月間で訪問できた先生方は6名に及び、着実に学びを重ねることが出来ました。これらの経験を糧に、今後の教育や研究に対する貢献を目指したいと思っております。

R. Karban 教授と Sagehen フィールド調査

東京工業大学物質理工学院博士課程2年　加島（かしま） 璃子（りこ）

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 Tae-Lim Choi 研究室に2023年8月から3ケ月滞在しました。ここは高分子合成を専門としている研究室であり、種々の精密重合手法を駆使して新しい機能性高分子の開発を行っています。留学先では2つの重合手法により高分子を合成し、得られたポリマーの構造解析を行いました。

平日は朝の9時から19時頃まで研究室で実験を行いました。ミーティングが週に2回あったため、教授や学生と頻繁にディスカッションをする機会がありました。「コーヒールーム」と呼ばれる休憩スペースで、昼食後にみんなでコーヒーを飲みながらコミュニケーションを取ったり、校舎の屋上でバーベキューしたりと交流する場が多く、研究面と生活面どちらも充実した日々を送りました。

海外研修を通してグローバルな環境で研究活動をすることができ、視野が大きく広がりました。日本の研究室に所属し、学会に参加するだけでは得られない情報を多く得ることができ、将来進む道の幅が広がったように感じています。このようなかけがえのない経験を滞りなく行うために支援してくださった大学女性協会のご関係者の方に深く感謝いたします。

Tae-Lim Choi 研究室メンバーたちと

# 「デュオハヤシ」コンサート報告　林俊昭：チェロ　林由香子：ピアノ

東京支部　中山律子

6月3日、文化事業委員会主催の初夏のコンサートに足を運んだ。「デュオハヤシ　編曲の妙味～曲作りの中にある作曲家の遊び～」である。まず、お二人による演奏曲の解説から、その話の掛け合いの妙。結成五十年のご夫婦によるデュオです。

第一部 モーツァルト作曲「魔笛」をベートーヴェンが編曲、チェロの豊かな音色とピアノの掛け合いに、原作と違った楽しさがあった。第二部のブラームス作曲ヴァイオリンとピアノのためのソナタ「雨の歌」はブラームス自らの手によりチェロ演奏に書き換えたというもので遊び心がいっぱいでした。最後にマルティーヌ編曲「ロッシーニの主題による変奏曲」はチェロが朗々と奏でる部分や、軽妙なテンポと変化に富む演奏技巧が発揮されて、心を揺さぶられた。時間オーバーの中、アンコールにサンサーンスの「白鳥」を奏でて幕となった。温かい雰囲気に包まれて、ルーテル市ヶ谷センターホールを後にしました。

**★秋の公演が決まりました！**

小川菜奈（かんな）　ソプラノ＋加未徹（客演）バリトン
日時：10月16日（水）14：00開演
場所：けやきホール

# 支部だより

支部活動をより活発にするために今回からご意見、ご提案をお願いしました。各支部の取り組みの参考にしていただければと思います。（広報委員会）

## アフリカに透析機器を贈ろう

神戸支部長　松村和子

2024年4月13日神戸支部総会開催後、公開講演会を開きました。

2020年11月21日に坂井瑠実先生の講演会をコロナの為前日に中止しました。コロナが落ち着き、講演会等開催できるので、再チャレンジと民間外交推進協会 関西 FEC、LFEC 実行委員長の山口正敏さんを迎えて講演会を開きました。アフリカ・コンゴに透析機器を贈る、ただそれが本当に大変なことだったんだ。わたしはコンゴという国の位置はわかりますが、国の政情、受け入れ態勢などとどれだけ大変だったのかを初めて知りました。機器を贈るだけではだめです。それを使ってもらわなければ、人材・場所等受け入れ態勢も完全でないと使用できないです。現地までの運搬費・機器の設置費・必要な備品購入費が必要です。遠い政治情勢が不安定な国に贈ることが、どれほど大変かと気づかされました。山口さんたちの活動・努力にボランティア活動の素晴らしさを見つけました。それとやはりコンゴ・アフリカは遠いですね。

Q：現在にもまして支部活動を活発にするにはどうすればよいですか。

A：会員だけではどうしても人数も限られてくるので、会員の周りの人も巻き込める活動をしていけば、もっと活発に活動出来ると思います。でも絶対に楽しくなければ動けません。在籍会員の年配の方をターゲットに楽しいことをいっぱいしていきたいと思います。まずは美術鑑賞とランチ。9月か10月にサッカー観戦。10月の講演会。元気に楽しむことが一番です。

会場風景

## 会報「Clarte　クラルテ」と共に　大分支部紹介

大分支部長　藤内和子

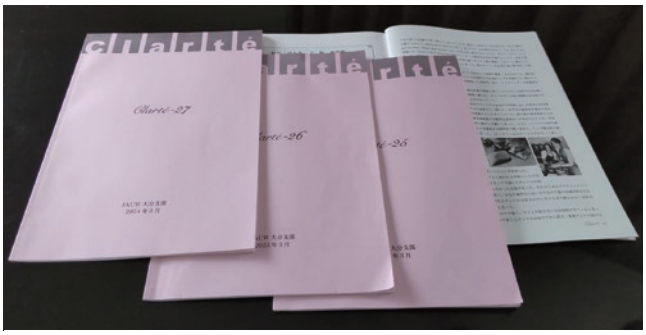
大分支部は13名で活動しています。会員の高齢化に伴い減少傾向ですが、会員同士は集うことを楽しみにし、和気あいあいとした雰囲気です。その源となっているのが会報「Clarte　クラルテ」の存在です。Clarte（フランス語）は創刊から27年が経過しますが、当時の井上支部長の発案で「女性が輝く」との思いを込めてスタートしました。1年間の活動のまとめとして年度末に発行していますが、行事のみならず、日頃の個々の研究や随筆など思い思いに一人一作品執筆を原則に取り組んでいます。行事に参加できなくても、会報によって会の動向や会員の日常が垣間見られることで連帯意識が醸成され、お互いの研鑽や親睦、憩いの場として大いに役立っています。

活動の内容ですが、国際交流が定着しており、毎年数名の県内留学生を招待し、講演や食事会を開催しています。また、大分市男女共同参画推進団体に登録をし、男女共同参画の啓発ビラ配りや市主催の講演会、フェスタへの参加など地域に根ざした活動にも力を注いでいます。フェスタでは2年連続ワークショップにブースを設け「日本とフランスのアニメ文化の比較」、「みんなで語ろう！介護のあれこれ」を一般市民の参加のもとで開催しました。

大分支部は本部創立2年後の1948年にスタートした歴史ある支部です。先輩方の想いを引き継ぎ、未来を語りあう集団でいたいと思っています。

Q：現在にもまして支部活動を活発にするにはどうすればよいですか。

A：会員のみの活動とせず目的を共有する団体との連携や公的機関やマスコミなどにPRをする等が考えられる。また、文化活動の講師に地域の若者を迎えることも有効ではないでしょうか。今後の人材育成や活動の輪の拡大につなげられる可能性があると思います。



会報「Clarte　クラルテ」

## 2024年度公開シンポジウムのご案内

**テーマ「ウェルビーイングと環境」**

企画委員長　鈴木千鶴子

“今日の社会が抱える課題の中から重要なテーマに取り組み、成果を報告書として纏め一般に発信”する公開シンポジウムとセミナー。6年間取り組んできた大テーマ「教育・ジェンダー・共生」を受け、今年は地球規模の環境破壊と人間社会の分断により脅かされる一人ひとり、特に次世代の「ウェルビーイング（幸せ）について環境の諸相から熟議」します。基調講演で地球大気環境科学の第一人者近藤豊先生に地球温暖化の特性と今後の可能な対応について新たな提案をしていただきます。会員と非会員女性4名のパネリスト達は科学者、ユース、人道支援家、三児の子育て研究者、それぞれの視点で知見を発表します。10月20日（日）、エッサム神田1号館大会議室でお待ちしております。

## (一社)大学女性協会80周年記念募金パトリシア寄付者ご芳名

**期間**：2024年2月1日～2024年6月30日
**寄付者人数**：10名
**寄付金額**：155,000円
上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別50音順）
**（東京）**伊能美智子、加納孝代、嶋田美恵子、鷲崎千春
**（大分）**和田輝美　**（福岡）**和栗方子　**（長崎）**鈴木千鶴子
調査・研究委員会有志
**（賛助会員）**小笠原今子、高橋政春、村上太郎
**全体期間**：2021年4月30日～2024年6月30日
**寄付者延人数**：269名
**寄付総額**：3,332,600円

**寄付金の振込先口座**
**銀行**：ゆうちょ銀行
**名義**：一般社団法人　大学女性協会
①　払込取扱票（郵便振替）で行う場合
**口座記号及び口座番号**：00130-0-587701
※パトリシア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。
②　他行から振込の場合
**支店名**：〇一九店
**口座種類及び口座番号**：当座 587701
※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

## 新入会員　理事会承認　2024年3月～6月

新潟支部　ジル・ゴロバ　東京支部　加藤　澄恵　東京支部　高田　智子
東京支部　野田小枝子　東京支部　濱松　若葉　神戸支部　浦嶋まさ子
神戸支部　笠木貴美子　神戸支部　中西　眞澄　神戸支部　三木　圭恵
岡山支部　白石奈津栄　熊本支部　鹿嶋　恵

## 理事会から

- 国内奨学生募集開始。全国の支部長さんにも9月の候補者推薦までお世話になります。よろしくお願いいたします。
- イタリア美術に関する6/22のＪカフェゲスト編の報告は次号で。講師の桑原夏子氏は2011年度の国内奨学生でした。
- 事務所の夏季休業期間8月10日（土）～8月19日（月）

## 一般社団法人 大学女性協会　2024年度国内奨学生募集要項

**Ⅰ　応　募　資　格**

一般奨学生　文部科学省の認可する大学の大学院に在籍する女子学生で、学業・研究・人物ともに優れた者。
社会福祉奨学生　文部科学省の認可する大学の学部に在籍一年以上または大学院に在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ学業・研究・人物ともに優れた者。
安井医学奨学生　文部科学省の認可する大学の大学院に在籍する女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業・研究・人物ともに優れた者。

＊備考
・1大学から各部門1名ずつ3名まで、1名は1部門に限り応募することができる。
・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再応募することはできない。
・在籍年数に休学期間は含まず、2025年2月末日に、在籍であること。
・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
・経済的理由は、一切問わない。

**Ⅱ　支給額および募集人数**

一般奨学生　大学院生20万円　6名
社会福祉奨学生　学部生10万円
大学院生20万円　学部生、大学院生合わせて3名以内
安井医学奨学生　大学院生30万円　1名

＊備考
・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
・奨学金は1回限りである。

**Ⅲ　提　出　書　類**（下記(1)，(2)，(3)，(4)，(6)はホームページからダウンロードして使用のこと）

● 連絡用応募者情報
応募者全員は「連絡用応募者情報」に記載の URL/QR コードにアクセスし、枠内に必要な情報を記入し、「送信」ボタンで送信すること（印刷して提出は不要だが、送信日を自己紹介書内の該当欄に記入のこと）。

(1)　履歴書・自己紹介書（写真貼付）
(2)　一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
(3)　研究・勉学の内容について
・大学院生は様式Ａ
・学部生は様式Ｂ
(4)　研究業績リストおよび社会的活動
・大学院生のみ
(5)　学業成績証明書
・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
(6)　身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し
・社会福祉奨学生のみ

**Ⅳ　応募方法および締切り**

応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
大学は一括して2024年8月30日（金）（必着）までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。

**Ⅴ　結果通知**

選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2024年11月末日までに電子メールで通知する。

**Ⅵ　その他の留意事項**

(1)　一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2026年3月31日までに本協会会長宛に［研究成果報告書］を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求めることがある。
(2)　国内奨学金贈呈式は2025年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
(3)　不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

募集要項URL: https://www.jauw.org/renew2021/wp-content/uploads/2024/06/国内奨学生募集要項2024年版.pdf
応募書類URL: https://www.jauw.org/scholarship-information/

募集要項 QR コード　　応募書類 QR コード

一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
https://www.jauw.org　　E-mail : jauw@jauw.org
発行人　長谷川　瑞穂　　編集責任者　端本　和子
発行日　2024年7月22日